



# いずみさの昔と今 第309回

## 「第二室戸台風の被害と復旧活動」

イベントなどへの参加の際は手洗いやマスク着用などにご協力をお願いします

今から60年前の昭和36（1961）年9月16日、大阪湾を北上した第二室戸台風は、泉佐野市内にも甚大な被害を及ぼしました。

16日の昼頃に市内を襲った同台風は、風速毎秒50mもの威力があり、加えて海岸で発生した高潮により海岸線一帯は甚大な被害を受けました。翌17日の被害状況によると、被災者総数は11,611人、全壊家屋350戸、流失家屋50戸、その他半壊家屋や浸水家屋も含めると計3,501件もの被害が出ています。また、本市の被害額は33億8千万円にのぼりました。

このような壊滅的被害を受け、16日午後9時に「災害救助法」が発令されると、市職員が中心となって復旧活動が急がれます。まず初めに急がれたのは物資の確保であり、16日の夜11時に大阪府から毛布1,000枚とクランクカー1,000食が届いたのを皮切りに、避難所には続々と支援物資が届けられました。また家屋の復旧用資材として、21日にはガラスやトタン板のほか、三河から瓦が到着しています。

各所の支援を受けながら市民総出で復旧作業が進められると、次第に復興の兆しが見

え始めます。特に甚大な被害を受けた海岸地域においても、台風直撃の4週間後には地面が見えバラックが立ち始めるほどに復旧が進みました。また、暖かな支援の輪は広がりました。市内外からの100万円を超える見舞金、タオル・衣類などの見舞品が続々と寄付されました。こうした背景には、「屋根瓦を飛ばされ、雨が少し降り込んだぐらいは『人並み』で、ほかには、もっともつと気の毒な人たちがいる」（市報第82号）という言葉に象徴される通り、より被害を受けた方々を思いやる市民の助け合い精神がありました。なお、『人並み』という言葉は当時ちょっととした流行語になって聞かれていたといえます。

台風被害からの復興が進むと、台風の教訓を生かそうとする動きがありました。とりわけ台風直撃の翌年昭和37年8月に発行された市報では、「いやな台風がやって来る」と題し、台風シーズンの到来に先駆けて市民への注意喚起がなされました。そこには、台風の進路にはクセがあり、最も恐れるべきは第二室戸台風と同様に紀伊水道を通じて大阪湾を北上するコースであること、避難時には欲張らずに必要な最低限の衣類や書類のみを持ち出すこと、停電を覚

悟しローソクやマッチを備えておくことなどが記されています。台風の教訓を生かして記されたこれらの注意点は、現在の私たちにも通じる注意点であるといえましょう。

平成30（2018）年9月4日に接近し本市にも被害を及ぼした台風第21号は、みなさんの記憶に新しいところでしょう。災害は繰り返します。過去の災害の歴史を知り、そこから得た教訓を生かすことで被害を抑えるように努めていきたいと思います。



▲春日町海岸防潮堤にたたきつけた高さ12mの波浪

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）  
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
入館料 無料

## 日本遺産・中世日根荘を巡る②⑥ ～旅引付編（10）「土丸蓮華寺」～

「日本遺産」に認定された「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介いたします。  
問合先 文化財保護課



◀政基公旅引付  
※旅引付の写真は、歴史館いずみさの所蔵の複製を使用（原本は宮内庁書陵部所蔵）

▶橋本正督墓地石塔



「土丸蓮華寺」は日根荘入山田村内槌丸村の寺院で、現在は真言宗犬鳴派、本山は七宝瀧寺で、社会福祉法人 犬鳴山荘の近くに 있습니다。本尊は如意輪観音像で、莊園領主九条政基が入山田村長福寺に入った翌々日、文亀元（1501）年4月3日、蓮華寺の住持が酒樽を進上したことが「政基公旅引付」に書かれています。

この寺からは土丸集落や土丸・雨山城跡が一望でき、寺の背後の山裾に伝橋本正督墓地・石塔群があります。橋本正督は南北朝時代の南朝方の武将で、土丸城を拠点に泉南地域各地で足利幕府方と戦いました。また、犬鳴山七宝瀧寺の中興に尽力したと伝わっています。

橋本正督は永和・天授5（1379）年に土丸城を追われ、康暦2・天授6（1380）年に幕府軍に敗れて戦死しました（花宮三代記）。楠木正成顕彰運動の対象となり、南朝の忠臣として「贈従四位橋本正高／皇紀二千六百年十一月橋本正高公顕彰会修復」の銘で石塔が昭和15（1940）年に建立されたほか、宝篋印塔6基、五輪塔7基、一石五輪塔12基が残されています。五輪塔には銘文はなく、混積品ばかりですが、中でも最も大きいものが伝橋本正督の墓とされています。